地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生き合うコミュニティーづくりの情報を発信する

いのちの森通信

公益財団法人
いのちの森
文化財団

Vol. 28
2013.Fall

発行/ 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

平成25年9月25日発行
編集 山下 薫

連載 『ほんとうの自分』とは？

第四回

運命の急変
一転、どん底へ

馬場 俊彦
（名城大学名誉教授）

「キミ、名前は何と言うか？」

哲学に進んで、今も有り難いのは主任教授池上鎌三先生との出会いです。私は中学入学時の母の助言以来、質問魔みたいでした。カント哲学の原書ゼミ第一回が終わった時、私は直ぐ先生の後を追いかけました。「先生、質問があります」。やっと振り返ってくださって「何年生かい？3年生？ 4年生になったらおいで」「先生、5分でいいです、いや3分でいいですから」「ほんとうに5分だよ」と丁寧に教えてくださいました。

「ありがとうございました！」。こんなことを毎週続けました。五回目のとき、「また、キミかい？名前はなんていうかい？」「はい、馬場俊彦ともうします」「馬場君かい、キミ、よく勉強してるね」。私は嬉しかった！先生が名前を聞いてくださった。自分の存在を認められたこの経験、これは以後、学生さんに対する、いや、全ての人に対する私の心がけとなりました。

ところが私の困ったことは、本を読むのがとてもろいことです。ある時、自分が学ぶ決心をしたフッサールの現象学の原書を持って歩いていると級友のI君が尋ねました。「それ、もう一回くらい読めたかい？」「そんな！…」「じゃあ、半分？」「いや、13頁」。何と読み始めて3カ月に入った頃です。彼はとても心配してくれました。でもラスキンの「一字一句何回でも、読み直す」読書論が骨身についていた私には、速読は無理でした（要領の悪さのとびきりの見本馬場！）。また、レポートを書くのも、友達が3日で書きあげる時、私は1カ月かかってようやくでした。問題は卒業論文でした。締め切り12月25日土曜日正午。ところが11月に入ってもまとまりません。

卒論に悩む 本間先生の涙

その頃私は近くの小さな教会に不思議なご縁でお世話になっていました。幼い頃から父と母が通っていた教会の牧師さんが「東京生活の中で何か困った時、すぐに相談にのってくれる親切な人が身近にいてくださるのとくださらないのとでは、天と地の違いだ、この先生は本間（ほんま）に誠（まこと）という名前の通り真実そのものの人だ、ぜひお世話になるように」と言って勧めてくださったのでした。当時教会を批判していた私でしたが、フト従いました。今思うと天の導きでした！

毎日曜十数人が集まるくらいの教会でしたが、本間先生は、ご自分の生活を忘れたかのように一人一人を心にかけていてくださいました。その先生が、私を見て、「私が手伝えるといいけど、専攻が違うから（早稲田大学の生物学の教授でした）、誰か？と探したら、あなたの先輩のこの中沢さんが、引き受けてくださいました」。中沢さんは優しい眼で私をご覧になって、「僕でよかったら何でも手伝ってあげるよ」と笑顔です。それで「どうかよろしく」とお願いしました。中沢さんは何と毎晩私のところに来てくださいました。ところが提出日三日前清書に入った時、私は声をあげてしまいました。「先輩、僕、こんな出来の悪い論文、出したくありません！ 一年留年します」―「そんなこと言うなよ、来年になったら、また同じこと言うよ。いいから出しなさい」。でも私は聴きません。

翌日本間先生の所に行って「先生、僕、論文出来が悪いので一年留年しようと思います」と。先生は「馬場さん、ご自分の論文の出来がいいか悪いかは、あなたが判断することではないでしょ。その判断は教授の先生方にお委ねするのが学生の筋でしょ」「でもコンナに僕をかわいがってくださる池上先生に申し訳なくって…」。すると先生は奥の三畳間に入って、しばらく出て来られませんでした。ようやく出て来られた先生は、見ると眼が真赤でした。「先生は泣いておられたのだ、私のために！」愕然としました。先生の口から出た言葉は、「馬場さん。ご無理なさらなくていいですよ」でした。それも横を向いて弱弱しい声でした。申し訳ない！ 飛んで帰って中沢先輩に「お願いします。僕出します！」と改めてお願いし、二晩徹夜で土曜日締め切り五分前に事務局に飛び込んで提出、折り返し飛んで帰って本間先生に「先生、論文、出してきました」と報告すると、先生は「馬場さん、ほんとですか？」「ほんとです」「馬場さん、バンザイ！」先生は子供みたいに両手を挙げて30センチくらい飛び上がって叫ばれました。《本人よりも苦しみ、本人よりも喜ぶ愛》

池上先生の言葉

何と卒業論文は合格でした！ 本間先生の涙のおかげです。先生の涙がなかったら私はケロッと留年していたでしょう。この時私は「真実の愛とは何か」を骨身にこたえて学びました。それにしてもあんな論文がどうして合格？ 予餞会（卒業前送別会）の席上で池上先生の言葉に驚きました。「ひょっとして諸君の中に自分の論文の出来が良くなかったと小さな胸を痛めている人がいるかも知らないが（ア、僕！）それはキミが自分の眼で自分の論文を見てそう思っているだけであって、我々の見るところは違うのである。（エッ？）我々はキミの論文のいわば裂け目のような所からキラリと覗いている哲学者としての素質を見るのである。その我々の眼から見る時キミの論文は光っている」。（自分のことを自分以上の眼で見てくださる方との出会い！柴山先生に次いで二人目！）

私は胸が一杯になって嬉し涙で帰りました。その上、修士課程に入学したら、1年度に一人という特別研究生（初任給並みの特別奨学金が頂ける）に選ばれたのです。いわば教授の側近です。先生は「これからキミの世話になるね」とまで言われました。また、「出来の悪い息子ほどかわいいと言うよね」とも！

池上先生の急死

ところがその池上先生が肺癌が見つかり、手術の夜急死なさったのです。

別のJ教授が主任教授になられてある日、院生全員がお茶を飲んでくつろいでいた時、J教授が入って来られて、「馬場君は今、特別研究生ということになっているがこれは何かの間違いであって、キミは学部の成績もそんなに良くなかったのだが、池上君があまりに頑張るのでキミの方に行っちゃった」と言われました。先生の愛弟子の方に行かなかったのです。直ぐ助手の方が私を陰に呼んで言われました、「教授に睨まれたら一生浮かばれんゾ」と。結局修士論文の指導も断られ、1年遅れで提出した論文は「良」で博士課程は不合格！

今思うと天（大宇宙生命様）の凄いご指導だったと思います。この3年後、とうとうある夜、自殺寸前までに追い込まれたのですが、その時実に不思議な体験が起こって、立ち上がりました。するとそれから、信じられないほど人生の大展開が始まり、81歳の現在まで驚きのドラマの連続です。「あんなみすぼらしいボクの奥底に、こんな素晴らしいいのちが隠れていたとは！」これを若い皆さんに、いや、お年寄りにもぜひ伝え、共どもに体験したい。「人間には自分でもまだ気づいていない素晴らしいいのちが秘められている！」―それで、私馬場の人生の仕事は、「①この秘められたいのちの素晴らしさをいよいよ深く知ること、②そのいのちが大きく目覚め発揮されていくために、どうすればよいか、その道を明らかにすること」です。その道にいろいろある中で、「人生の大困難にぶつかる、生きるか死ぬかという窮地に立つ」もその一つです。次回は、私がどのように追い込まれ、自殺寸前からどのようにして立ち上がれたかを話させて頂きます。

いのちの森文化財団 青少年育成公開講座のご案内「憧れは実現する」
2013年10月20日(日) 10時～12時
講師 馬場俊彦 先生

ばばとしひこ 1932年岐阜県に生まれる。1951年東京大学文科一類入学。出世競争に驚き文学部哲学科に転進。修士修了するも博士課程不合格。前途に絶望。ある夜自殺寸前から立ち上がり、以後不思議な人生の展開を経験。1966年名城大学就職、理工学部で英語・哲学担当。同大学大学院総合学術研究科・経営学研究科、また愛知医科大学看護学部で人間学を講義、現在名城大学名誉教授。

地球文明を希望の方向へ

―「偽善」について―

山本 恭司
（『未来共創新聞』編集長）

万人の胸奥に善意志

「良心」（英語でconscience＝「共に知る」の意味）は、誰にでもある。

ある凶悪犯が入っている刑務所に、新しい受刑者が入ってきた。看守に、「あの人は何をしたのですか？」と訊くと、看守は新入り受刑者の犯罪内容を説明した。それを聞いた凶悪犯受刑者いわく。「だんな、ひどい奴がいるものですねえ」。

事ほど左様に人間というのは「悪」に敏感な生き物でもある。新人受刑者の犯罪内容を聞いて、「それはひどい！」と批判している瞬間、その凶悪犯は「裁く人」、つまり「善」指向の人なのだ。

少なくともこの世には「善」と「悪」とがあって、悪は良くなくて、善が良いという意識が万人にある。この意識は、「世俗の法廷」である裁判所で「凶悪犯罪」と断罪された人であろうと、誰であろうと、「人間」が先験的に持っている根源的な感性である。凶悪犯が看守に「ねえ！」と共感を求めたことに、救いがあり希望がある。人間は善に、すなわち幸せになりたいのだ。人間の胸中の奥の奥には善意志（＝善）があり、良心がある。それはダイヤモンドの原石のようなもので、磨けば光る。

良心を機軸に言論のネットワーク構築を

「汝の良心に忠実なれ」――ある尼僧が、歴史的景観の破壊につながる市の計画を思いとどまらせたいと願って、市長に贈呈した高級織物に織り込んだ文言である。

「あなたにも良心というものがあるでしょう。自らの良心に真っ正面から向きあえば、歴史的景観を破壊する計画は、たとえ実現する運びであっても中止の決断をすべきであると分かるはず」と暗に諭した。その市長は、結果として景観破壊の計画を中止した。

全ての人間に良心があるとは、私にとっても救いである。自分は生来、救いがたい悪人ではないのか。これは若い時から私自身への、答えのない問いであった。私は生来「善人」なのか、「悪人」なのか。自分は大変な罪人であって、神仏から断罪されるのではないかと自問した。でも、全ての人間には良心がある。そう思うと光が見える。ある日私は、「良心に忠実に」が、私にとって『論語』に言う「法語の言」（子罕篇、従わずにおれない正しい言葉）であると心に刻んだ。

その後、私は「良心のネットワーク」というブログを創りたいと思った。自分の良心に忠実に生きようとする人々のネットワークができれば、世の中が良い方向へ方向転換するのではないかと考えたからだ。例えば、土壌と地下水を汚し人の健康を損なう農薬の使用を止めようと農業従事者や市民、行政担当者らに呼びかける。地球を放射能汚染の星にする原子力発電を中止し、核兵器や化学兵器を廃絶せざるを得なくなるように、グローバルな言論のネットワークを張るのだ。

一方で、人間とは醜いもので、根本は悪だ、無明だ、原罪を背負い、永遠に業苦を免れない、という人間観の系譜もある。しかし私は、その否定的な口吻の中に、「やはり人間は善を、良心を、あるいは良知をこそ求めるべきだ。求めて生きることができる」という無意識裏の根源的叫びを聴き取る。「偽善」を鋭く抉ったニーチェは良心的哲学者であったと評価する見方がある。ニーチェは偽善を徹底して暴き、善悪の彼岸を生きよと説いたが、その誠実な自己洞察に、私は洋の東西を超えた人間良心への憧憬を視てきた。

イエスの生涯は偽善との戦い

ある日私は、妻から、私の娘が「お父さんは偽善者や」と言っていると聞かされた。他人の評価ならいざしらず、20年間一緒に生活してきた家族の見立てには根拠があるはずだ。父親である私を一人の「人間」として視て、「偽善者」と断じるその客観性、親離れした独立性を、私は反面嬉しく思う。がしかし、「偽善者」とは……。私のどの振る舞いを指して「偽善者」と断定しているのか。いずれにしても、私は昨日までの非を否定して、今日のゼロから出直さなければならない存在であると、改めて思った。

夏目漱石に「露悪家」という造語がある。漱石は、己の中に巣くう悪を隠して、世間に対しては「善人」の化粧をして、たまゆらの「成功」に酔いしれている偽善者であるよりはむしろ、世間には「悪人」のイメージを演出する露悪家の方に好感を持ったという。私の学生時代、そんな漱石評を先師から伺ったことを思い出す。

イエスは「パリサイ人」を「偽善者」であるとしてやり玉に挙げた。パリサイ人とは、聖書に精通し、戒律を厳格に守り、世間では善の権化のように評価されている指導者をいう。イエスの生涯は、偽善者との戦いであったとも言えると思う。

私は、私の偽善に気づいていない。しかし、私は私の偽善と戦わなければならない。私がまだ心の底から満たされた幸福感に浸り切ることができないのは、自分の中に「偽善」があるからであることは紛れもない。私は、我が振る舞いに現れている「偽善」を凝視める他者の眼に曝され指弾されることに潔くなければならない。厳しい他者の眼は、ほかならぬ私自身の良心の眼なのである。私は、私の「偽善」を見抜く眼力をもつ娘に、畏敬をすら覚える。その分、私は幸福である。こう書けば、娘は「それが偽善者なのよ」と言うだろうか。

いのちの森文化財団のことも掲載されました

免れ得ない人生最期の総決算

自分自身が「偽善者」であることにまだ意識が及んでいない病膏肓の偽善者についてひと言。その見極めは意外と難しい。偽善者は、時として、本文の表題である「地球文明を希望の方向」へ向かわせる未来共創を妨げるはたらきをする。偽善者は、実は内心では自己矛盾に苦しんでいる。他人を信用させ、苦しむ自己を取り繕い通したところで、人生の最期の、偽りの総決算を免れることはできない。

偽善が問題なのは、その偽善者を信奉する人たちを本当の「善」から遠ざけ、「善と偽善を見分ける感受性」を鈍くさせ、彼らの人生を狂わせることである。偽善者一人が断罪されるだけでは済まず、広く世間に悪影響を及ぼすことを見過ごすわけにはいかない。

イエスがある金持ちに言った。あなたが私を師と仰ぐのであれば自分の財産を全て捨てて私に付いて来なさい。その時、その金持ちは悲しい顔をして、イエスの下を去った。イエスは言った。「金持ちが天国に行くことは駱駝が針の穴を通るよりも難しい」と。イエスはオール・オア・ナッシング（全か無か）を求めた。これを「絶対の絶対」と言うとすれば、もう一つの「絶対」がある。それを私は「相対の絶対」という。仏教で言えば、出家仏教と在家仏教の違いだろうか。

推譲の連鎖で未来を共創しよう！

真面目に一生懸命働いて大きな財産を築いた人や、その家族や子孫になんの問題もあろうはずがない。ましてやその人が、真に世のため人のために尽くしながら苦心惨憺している人やグループに真心から物心両面の援助をし、ほかの人にも共感の呼びかけをして援助の連鎖を拡げているとすれば、その金持ちは菩薩の行をしているのである。二宮尊徳の「推譲」の21世紀版であり素晴らしいと思う。

気功家の中健次郎先生の当財団青少年育成公開講座。「気功と人間の本質」について気功実技も交え学びました。

自身の偽善から眼を背ける「重症の偽善者」と、「良心の人を志す人」との見分けは極めて難しい。が、重症の偽善者を見透すメガネは幾つかある。重症偽善者は、世間的な成功を鼻に掛け、自分は悟っているとし、神仏に守られた特別な人であるかのごとく演技する。天人合一の格好をつける。弱者に居丈高で、レトリックで人を煙に巻く。善の言葉とエピソードが鉄砲玉のように口から飛び出し、「人を神格化してはいけない」と言いながら、巧みに人の尊敬を自分に集め神格視させる。人の瑕疵を執拗に攻撃して自らの非をカムフラージュする。金力で巧みに人を釣る。これを精神のペテン師という。

対話と共振が偽物を見破る

近代的自我や地球文明の危機を指摘しながら、自身の奥に押し込めた野望・名誉欲・金銭欲・権力欲・怨疾があたかも無いかのように振る舞い、自他を欺く。懺悔の衣をまとうて救済を求めるかと思えば、次の瞬間には一転自己を全肯定して《裁く神》の刃をふるう。今後このような支離滅裂な人間が、善人たちを惑わす現象が日本で起きるかもしれない。しかし、「無思想」の上に立って旗を振るリーダーに地球環境問題や平和問題の解決を期待しても、本当の前進はない。

偽物を見抜く慧眼は、一人の天才に具わっているものではない。

例えばいのちの森で行っている裸の魂と魂の誠実な対話、共振、対話、共振という粘り強い心の高め合いは、芋の子を洗うように、互いに自我の殻を破る。その澄んだ心と心の対話こそが偽物を見抜く眼識を磨いていくだろう。実質的な良心のネットワークは、そのような場から広がり、繋がりあい、結び合い、日本中に広がっていく。

その時、宇宙に響き合う共振がそのまま地球文明を希望の方向に向かわせることになると私は確信している。

高野山真言宗阿闍梨の宮島基行師による当財団青少年育成講座。食事作法など生活の基本を実践的に学びました。

山本恭司（やまもときょうじ）
『未来共創新聞』編集長。1947年生まれ。大阪府出身。株式会社オフィス21代表取締役。専門紙編集局長を経てライターとして独立。『公共哲学』（東京大学出版会刊、全20巻）の学者・文化人の全討論を文章整理した。ほかに『公共する人間』（横井小楠、田中正造、新井奥邃）『公共哲学の古典と将来』『物語論―1他者との出会い―』（いずれも東大出版会刊）を文章整理。震災後のメディア報道に危機感を抱き、2012年4月に『未来共創新聞』を創刊。盛和塾〈大阪〉月一回発行の『利他実践』誌を執筆制作。著書に経営者兄弟の自伝『父母に捧ぐ』。豫洲短板産業株式会社80年史『豫言書』の編集長。

【報告】青少年育成公開講座「環境問題の今と私たちが向かうべき方向性」

日程　平成25年8月16日

講師　内藤 正明 先生
（京都大学名誉教授）

参加者はとても真剣に先生のお話を聞いていました

これまで10回の連載をしていただきました内藤正明先生にこの度、いのちの森にてご講演いただきました。ご講演の内容を一部抜粋してご紹介させて頂きます。

工学技術ではダメ？

今紹介にありましたように、私の専攻は工学ですが、実は工学というのは世の中にたくさん悪いことをしてきた。20世紀のこういう世の中に大きく影響して、ゆがめたとは言いませんけど、いろんなことをしてきたことのかなりの部分、工学技術が影響したといっていいと思います。ということで私はもともとそういう商売なのですが、割と早い時期にこれはダメだろうと。こういう社会を技術屋が中心となって発展させていったら将来はないと思いました。

それではどうするんだということになった時に、ずっと消去法であれも駄目これもだめとしていった時に、唯一残ったのが農業などの、広く一次産業ですね。自然の営みをなんとか大事に頂いて…。

ただ、今の農業というのはとんでもなく工業化されていて、すごいエネルギーと資源をつぎ込んでいます。ですから、ほとんどの農作物はとれるエネルギーより何倍ものエネルギーをつぎ込んで作られています。唯一収支があっているのはさつまいもだけと言われていますね。ですからそういう、工業化された農業もまた資源依存的で、決して持続的ではない。本当の意味の農業をしなくてはならない。これがどういう農業かはみなさんの方がよくご存じですね。

自然を取り合って豊かさを追求した「ツケ」

なぜそういうことになったかというのを、要点を一言言わせていただくと私たちは自然からいろいろな恵みをいただくことになります。恵みをいただくことで、私たちの社会は物が豊かになって便利になります。

特に20世紀に思いっきり自然を取り合っています。これで私たちは便利さを得たんですが、これはとんでもなくツケ、廃物をだしてきたんですね。で、廃物を出さずに、おいしいことを得るというのは無理なんですね。人間にありがたいことが起こったら、ツケはこういう形で出るんですね。

人間が豊かになりたいために水を汚し、空気を汚し、土地を汚し、身の回りを破壊したわけです。こういうのは自分に返ってきて、これは大変だと、慌てて対策を一生懸命日本はやったわけです。日本の場合はとてもよくやったと言われています。

ところが気付いたら、その周りを破壊していったんですね。身近なところから遠いところへどんどんツケを回しているんだと。ゴミを隣の家に放り込んだら、文句言われる。そうかそうかと隣町へ捨てる、太平洋へ捨てようと。事実日本のし尿はずっと太平洋に捨てられていた。そしてそれができなくなった時にとても大変なことになったわけですね。ですから、そういう風に遠くに遠くに持って行く。そういうことしていったら、最後に地球にいってしまった。

で、こう言ったら、汚した水が地球に行ったわけではないだろうと、それは直接はないです。汚した水は今技術で、一生懸命きれいにしてます。それが私のほんとの商売ですね。でも気が付いたのは、水をきれいにするために、勝手にきれいにはならないので、機械を動かすわけで、ものすごいエネルギーをつかう。でもそれは地下資源をほとんどタダ同然で収奪してくる。で、やるわけですが、やっと今気づいたんですね。全部温暖化と石油の枯渇につながる。改めて考えてみると、私たちが何か、技術で汚いものをきれいにしたり、快適にしたりすると、その裏には全部石油つかって、その結果を、地球にツケをまわした。

これをもとに戻す技術はあるのか？あるんだという人もいる。二酸化炭素は石油などの化石燃料を使ったら必ず出る。それが温暖化の大元だとやっと気付いたのですが、時すでに遅し。で、あわてて、二酸化炭素を処理する技術を作らんかと。これはできます。できるんですが、装置を動かすエネルギーのほうが多い。この頃の技術っていうのは、そういうのがとっても多い。

二酸化炭素を技術的に止めるのは不可能

最初はソーラーで、発電するっていうが、装置を作るエネルギーのほうが多いんではないのかと。太陽のエネルギーを回収する期間が10年以下だったら作るエネルギーのほうが多い。だんだんよくなってきて、今だと7、8年くらいで元は取れて、そのあとは得するという感じ。ハイブリットカーも、4年以上東京で壊さないように乗って、それ以降少し得する。

そういうことを誰も言わない。そういう技術の裏っていうのがとても大事なんだ。いずれにせよ技術でできることには限界がある。なんでも技術でできるっていう風に思い込んだのが、実は最終的には地球の異常をもたらした。これは止まらないんですね。

私は地球温暖化をずっと研究対象にしてきましたが、断言できることはもしほんとに温暖化が起こっているのなら止まらないと思います。二酸化炭素を止めようというのは技術的には不可能だし、今の世界の仕組みでは、お前のほうがたくさん出してると言い合っている。全然決着がつかない。これでは止められるわけがない。行くところまで行きます。行くところまで行ったらどうなるかというのも、難しい問題です。そっからあとは新聞に書いてありますけど、本当に破局的なことがおこります。2度地球の平均気温が上がったら、地球の生物はその環境変化に追い付けない。ほとんど絶滅するんじゃないかと。今生物がどんどん死滅している。もっと温度が上がれば、なにが起こるか、それはもう地獄絵だと思います。

私の世代ではどう転んでもそれを見ないで死ねるという意味ではとってもラッキーな世代といえるかもしれない。ちょっと若い方は入口くらいはみるかもしれない。もっと若い子はどっぷりつかるかもしれない。私の孫もあぶない。今の世はお金を残しても、生き残れない。《お金を食べて生きられますか》という本が評判になっています。

技術がもたらしたプラスとマイナス

技術は、人に頼らないで生きる術をもたらした。今までは人に頼らないといけないことを、スイッチ一つでできるようにした。こういう技術を世界はひたすら作ってきた。これが便利ということ。人と力を合わせて屋根ふきしましょう、畑耕しましょうとか、不便でしょうがない。人の力を借りなくてよくなった。これが技術の大きな効果です。これを裏返せば人の絆というのは面倒なだけだと。昔は絆というのはシガラミといわれていた。農村社会のシガラミからいかに逃れて自由になるかというのが、当時の日本人の価値観だった。それを支えたのが技術です。

もう一つは自然の恵みからできるだけ遠ざかれること。お天道様なんて心配しないでも、ビニールハウスだのもっと言えば、施設園芸から、工場の中でコンピュータで制御して野菜がコロンコロンして、野菜をパックしてくれる。自然の恵みなんて悠長なことなんて言ってなくてもいいんだと。ビルの中でコントロールすれば100％自動化できる。わけのわからない自然のでたらめなことからできるだけ切り離して、人間のコントロールのもとで目的が達せられる。これが、技術の追及してきたこと。

もう一つは人がいらなくなった。これがある意味一番深刻かもしれない。技術が発展するということは過酷な労働から解放されるといえば聞こえはいいかもしれないが、解放された人はクビになってる。幸せになってない。私の同級生に、大企業に勤めている人がいます。その人が同窓会で自慢してた。日本の技術はすごい、これまで百人も千人もかかって作ってたのが、十分の一くらいでいいものができるようになったと。私はそこで疑問に思った。いらなくなった十分の九はどうなったのかと。すると同級生は、生産性を上げるために人数を減らしたんだから、クビか下請けにでもいったんじゃないかと。

もし、このまま技術が発展していったら、いらなくなった人はみんな下請けにいくのか？それは技術としてありなのか？根本的に今の技術というのはなんなのか？人を幸せにすることにはなっていない。今の技術は、大企業のもうけのための技術。今の技術は産業技術。産業技術は、産業界（株主）の利益のための技術である。

内藤先生講演会のスライドより

新しい技術とは？

これではいけない。市民のための技術を作らないといけない。この技術は市民が恩恵にあずかれる技術。このようなことはかなり昔から、ヨーロッパでもアメリカでも言われている。リンカーンのように、市民による、市民のための技術をこれから作らないといけない。このような技術がどんな技術かは、みんなで考えないといけない。市民が、自分たちの能力と、資源と、知恵の範囲で、みんなのお金を出し合ってできる程度の技術でないといけない。大手銀行から何百億と借りて、設備投資して得られる技術では、市民に利益は返ってこない。

雇用を徹底的に破壊してしまう。技術がもたらした副作用である。技術のための資源確保が重要になってしまった。資源獲得競争が加速している。大半の戦争の原因は資源のため。資源を獲得しないと今の技術は動かない。私が技術屋を即やめたのは、今の技術はだめだから。今では新しい技術をもう一度技術屋に戻って考えたいが、もう年が行き過ぎていて…。もしこの中で、俺が引き継いでやろうという人がいたら、最後の力を振り絞って一緒に勉強したい。

参加者の感想より

▼今現在の、地球環境の問題、農業の問題などがこの先の将来世代の人たちにどのような影響を及ぼすのか、そして生きている自分たちがどのような生き方をすべきなのか、又、どのように生き方や考え方が求められているのかを真剣に考えることが必要だということを強調していたように思います。この先に待っている深刻な時代を乗り切る時に大切なのは自然と調和した農業を営み、自給自足で生きていく力をつけること。自分が研修を受けている農業の意義深さを感じます。まずはしっかりと自分の基本を見つめ直し、日々の研修に精進していきたいと思います。（Iさん 10代）

▼本当に興味深い内容でした。最近でも、いまだに「環境問題」というと、あいまいで、ありきたりな話ばかりですが、今回の内藤先生のお話は、まさに、自分が求めていた内容が含まれていて、質問などもさせていただきました。これからの時代は、農業が中心となってくる必要があるということでしたが、ただ過去に戻るのではなく、科学技術や精神性も含めた、よりホリスティックな宇宙的な調和が必要になってくるのだということ、とくに、地球人類全体として、精神、心の面が高まっていかないと、どんなにすばらしいことでも、また同じような過去へとつながっていってしまうのだということを学ばせていただきました。そういう時代は必ず来ると、いや、つくっていけると信じています。この地球を良くするも、悪くするも、とにかく私たちの意識次第であるのだということ、もう本当に近いうちに、地球的な大変化の時が来るのだということ、その時自分がどういう状態でいられるか、それを今まさに学んでいるのだと思います。（Kさん 10代）

福島県被災地の子供たちへのお野菜支援を継続しています！皆様からのご寄付も引き続きよろしくお願いいたします。

この夏には、南相馬市の保育園に加え、福島県の被災地の子供達の保養キャンプにも飯綱高原産自然栽培野菜をお送りいたしました。お手紙をいただきましたのでご紹介させていただきます。

いつもおいしいお野菜を届けてくれてありがとうございます。

先日、送っていただきましたトウモロコシを子どもたちは実際に皮をむいたり、匂いを嗅いだり、ひげを触ったり…　なかなか家では、経験されないトウモロコシむきを体験させていただきました。

2歳児は、ベビーコーンをむいてくれました。小さな手で一生懸命に…。時々、生のまま、口の中に入れてしまったり、そんなハプニングもあったのですが、喜んでお手伝いをしてくれました。

また、おやつに「茹でトウモロコシ」をみんなでいただきました。「あま～い」「おいしい」…　子どもたちは、全員トウモロコシが大好きです。（先生も大好きです）

トウモロコシのお陰で、嬉しい笑顔が沢山見られました。ありがとうございます。

原町聖愛保育園　主任　高田公恵

公益財団法人 いのちの森文化財団では
以下の公益目的事業への寄付金を募集しています

①「高齢者のための生きがい創造基金（死を想い、より良い生を生きる・生と死の統合事業）への寄付」
②「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
③「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動（保育園へのお野菜支援含む）」
④「いのちの森の会費（一般寄付）」

※本財団への寄付は税制上の優遇措置が適用され、所得税・法人税の控除が受けられます。

【ご支援の方法】
▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄付先①～④をご記入の上、お振込み願います。
▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話（1ページ目参照）にて寄付先①～④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。

【お振込み先】
●ゆうちょ銀行振替口座　00520-3-42181
●八十二銀行　本店営業部　普通　1093531
●みずほ銀行　長野支店　普通　1991794
いずれも名義は「公益財団法人 いのちの森文化財団」

【報告】サマーチャレンジボランティア 中高生と共に学びました！

毎年夏、長野市社会福祉協議会が主催するサマーチャレンジボランティアの受入れ団体にいのちの森文化財団が登録されており、今年は、のべ約30名の中高生が参加されました。当財団では、水輪ナチュラルファームの協力を得て、無農薬野菜作りを行っている自然農園のボランティアを通じて、お野菜作りの実際に触れていただき、様々なことを体験を通じて学んでいただきました（当財団では通年で中高生の総合学習の場としての農業体験も受け入れております）。参加者の感想を紹介させていただきます。

みんなと一緒に昼食ミーティング

▼大自然の中で無農薬の野菜を育てていると知り、とても興味を引き、いのちの森文化財団に来ました。

初日は、炎天下の中の作業をして農業の厳しさを身をもって感じました。スタッフの方々は黙々と作業を進めていましたが、私は、暑いことを理由に手を止めてしまったりと自分を甘やかしてしまいました。

そのことをふまえ、2、3日目は頑張ろうと思い、少し疲れても作業に集中することが出きたのではないかとお思います。

短い期間でしたが、3日間で物事の見方や考え方が確実に変わりました。とても大きな成果が得られたと思います。（高校2年 Oさん）

▼私は今回始めてのサマチャレを終えました。私は将来、農業をしたいと思ったのでいのちの森のボランティアに参加しました。農作業はこんなものかなと頭の中でイメージしていたものと一緒でした。自然が好きなので作業は楽しかったです。（高校2年 Tさん）

【いのちの大学講座ご案内】心の病とやさしい心理学

2013年10月5日（土）～6日（日）
講師 巽 信夫 先生
（前信州大学医学部助教授）

40年以上の臨床経験をお持ちの巽先生からやさしい心理学の講義を伺います。Q&Aの時間もあります。また、個人カウンセリングも可能です（要予約・費用別途）。

《前回参加者の感想文より》

▼今回巽先生のセミナーに初めて参加させて頂いて、自分の成長につながるお話を沢山聞けました。人間の成長過程の上での問題点を知り、たとえば、今後アイデンティティが確立されていく上で気づかなければいけない点を知りました。やっぱり私は笑顔を恐れたり、ほかの人の目を気にして生きてきた部分があったのですが、失敗は今後の経験として活かして、修正体験を積むことが大事だということに気づかされました。失敗をすると、冷静さを欠き、自分が否定されたかのように思ったり、自分を深く責め立ててしまうところが私にはあって、結果的にそのストレスが、腹痛につながったりしてしまうので、失敗は失敗としてしっかり反省をして、二度と同じ失敗をしないように気をつけて、切り替えて、次の目標に向かうことが大切なのかなと思います。

あと私はとても優柔不断で物事を決めるのに時間がすごくかかって、それがクセになってしまっています。選択を後々に延ばしたりすると大変なことになったり、段々麻痺してしまうことがあると思います。なのでそのようなことに気をつけながら生きていきたいです。（Tさん）

2013年～2014年　いのちの大学講座（学長 帯津良一 ・副学長 巽信夫）　～人生をよりよく生きる～　（日程は変更になることがあります）

「がん患者のための合宿養生塾」
講師 帯津 良一 先生（帯津三敬病院名誉院長）
2013年 11月22日(金)～27日(水)
2014年 3月28日(金)～4月2日(水)
5月4日(日)～9日(金)
8月22日(金)～27日(水)
11月22日(金)～27日(水)

「いのち学」
講師 帯津 良一 先生（帯津三敬病院名誉院長）
2013年 11月22日(金)～27日(水)
2014年 3月28日(金)～4月2日(水)
5月4日(金)～9日(金)
8月22日(金)～27日(水)
11月22日(金)～27日(水)

「生老病死のホメオパシー講座」
講師 帯津 良一 先生（帯津三敬病院名誉院長）
2014年 7月19日(土)～21日(月･祝)
10月11日(土)～13日(月･祝)

「日常断食」
講師　宮島 基行 先生
（高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者）
2013年 11月2日(土)～4日(月･祝)

「心の探求 ～般若心経の真髄をひもとく～」
講師　宮島 基行 先生
（高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者）
2014年 1月11日(土)～13日(月･祝)

「心の病とやさしい心理学」
講師 巽 信夫 先生　（前信州大学医学部助教授）
2013年 10月5日(土)～6日(日)

「脳と心の勉強会」
～脳と心と体のつながりについて～
講師　久間 祥多 先生（脳神経外科医）
2013年 11月16日(土)～17日(日)

「年末年始内観ステイ」
2013年 12月28日(土)～2014年1月4日(土)

【緊急開催決定！】「人は何のために生きるのか？何のために働くのか？」連続講座
講師　奥 健一郎 先生
（鹿児島大学稲盛アカデミー専任教授 ）
2014年 1月24日(金)～25日(土)
2月28日(金)～3月1日(土)
3月21日(金･祝)～22日(土)　※4月以降も毎月開催
歴史に学ぶ先人たちの生き方とは？時代はますます混迷を深め、生きる目標や意志を失った若者も増えてきています。国立鹿児島大学稲盛アカデミーから奥健一郎教授をお招きし魂の講義を開催いたします。詳細はお問合せ下さい。

「青少年育成公開講座」
【2013年】
10月20日　馬場 俊彦 先生（名城大学名誉教授）
11月3日　宮島 基行　先生（高野山真言宗阿闍梨）
11月24日　帯津 良一　先生（帯津三敬病院名誉院長）
12月　高野 道隆　先生（会社役員）
【2014年】
1月 ブレンダ・デーヴィス　先生（英国精神科医）
2月 宮島基行　先生（高野山真言宗阿闍梨）
3月 小林計正　先生（元県職員）

「集中内観セミナー」【随時開催】
面接 塩澤 研一（日本内観学会会員）

「リーダーシップセミナー」　【随時開催】
講師 塩澤 みどり（いのちの森文化財団代表理事）

「こけ玉グリーンアートセラピー」【随時開催】

「いのちの森の学校」【随時受入】

「シーズンチャレンジボランティア」【随時開催】

「『総合的な学習の時間』の支援としての農業体験」
【随時受入】

※詳細はお問い合わせ下さい
いのちの森文化財団事務局　TEL 026-239-0010